## 様式

技術名称	港湾施設における グラウンドアンカーの 有効利用	技術の分類	グラウンドアンカー		登録の有無 tNETIS番号)	無
会社名等	(社)日本アンカー協会	担当者	山崎 淳-	_	連絡先	j-yamazaki@sanshin-corp.co.jp
	グラウンドアンカー工法は、国内では1957年に藤原ダム・副ダムの安定で採用され、その後、斜面安定や基礎構造物の転倒防止などに数多く用いられている。 近年では、既設岸壁を耐震補強岸壁として整備するために、耐震補強工法とし				パンフの有無	沿岸技術研究センターの技術評価を得た工法として、EHD7 ンカー工法、SEEEアンカー工法
技術の概要	近年では、既設岸壁を耐震補強局で、南本牧ふ頭、神戸港P1(第2期た、海外ではダムの堤体の補強・ンカーの有効性(補強効果、耐久・グラウンドアンカー工法は、今後、さらに活用できる技術であると思れ補強の事例と共に発表する	)地区(図-1)岸壁など <sup>-</sup> 耐震補強・嵩上げの事 性、経済性など)が認め 港湾構造物の耐震補引	で採用されている。ま 例が400件以上あり、ア られている。 鱼、嵩上げ、補強などに	/水门 具作	その他の資料	・早稲田大学大学院 教授 清宮 理 「東北地方太平洋沖地震での港湾施設の被害と復旧工法でのグラウンドアンカー工法」 ・「アンカーによるダムの補強・耐震補強・嵩上げ」事例
	グラウンドアンカー工法は、小さな特徴があるが、近年では、より高いされ、沿岸技術研究センターの技るための計測技術や効率的に緊張術も進化している。 一方、供用中のアンカーの維持管共著による「グラウンドアンカー維価方法や補修・補強の手法などか	い耐久性を有する構造( 術評価を得ている。また 長管理を行うシステムな 理に対して、土木研究 持管理マニュアル」が多	のアンカー工法が開発 と、削孔の精度を高め などが開発され、施工技 所・日本アンカー協会	その他	・藤原ダム・副ダ ************************************	- 神戸港P1t地区岸壁耐震補強  - 神戸港P1t地区岸壁耐震補強

<sup>※</sup>複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。